京城日報　朝刊　大東亞戰爭一周年記念日

赫々・戰史に輝く大偉業

開戰以來の陸軍綜合戰果

捕虜實に卅四萬餘

飛機千六百餘を撃墜破

【東京電話】帝國陸軍部隊は寺内南方々面最高指揮官を總帥として山下マレー、本間比島、今村蘭印、飯田ビルマ、酒井香港、前田ボルネオ方面最高指揮官などの鐵の布陣により大東亞戰爭開始以來僅かに六ケ月にして英米蘭濠の東亞における陸上武力のほとんどを撃滅し、南方全域を大東亞共榮圏の傘下に收め必勝不敗の態勢を確立したが、大本營では帝國陸軍部隊がこの六ケ月間に收めた綜合戰果ならびに南方占領地域の建設狀況につき七日左の如く發表した

大本營發表（昭和十七年六月七日午後四時）大東亞戰爭開始以來六ケ月間（五月三十一日まで）に收めたる帝國陸軍の綜合戰果およびわが方の損害ならびに占領地の現況左の如し

綜合戰果

交戰せる敵兵力ならびに敵に與へたる損害

支那作戰方面（香港攻略を含まず）

北支　交戰兵力約九十三萬、敵に與へたる損害、遺棄死體約五萬六千三百、俘虜約二萬三千

中支　交戰兵力約五十八萬、敵に與へたる損害、遺棄死體約五萬二千六百、俘虜約一萬[illegible]

南支　交戰兵力約五萬、敵に與へたる損害、遺棄死體約二千五百、俘虜約一千、計約三千五百

計　交戰兵力約百五十六萬、敵に與へたる損害、遺棄死體約十一萬一千四百、俘虜約四萬[illegible]

南方作戰方面

香港　交戰兵力約一萬五千（英、カナダ、印度兵）、撃滅せる兵力、ローソン旅團、ウォリス旅團（英、カナダ、印度兵）

フィリッピン　交戰兵力約十三萬、撃滅せる兵力、兵團數約四個師、內譯　米第一師團、フィリッピン國防軍第十一、第二十一、第三十一、第四十一、第五十一、第六十一、第七十一、第八十一、第九十一、第百一師團

マレー　交戰兵力約十二萬、撃滅せる兵力、兵團數約六個師、內譯　英第十八師團、濠洲第八師團、印度第九、第十一師團、マレー第一、第二旅團

蘭印　交戰兵力約九萬、撃滅せる兵力、兵團數約四個師團、內譯　蘭印第一、第二師團、[illegible]第一個師團

ビルマ　交戰兵力約十五萬、撃滅せる兵力、兵團數約十三個師團、內譯　英第十七師團、印度第七機械化旅團その他六個大隊、印度第十七師團、第二十二師團、重慶第二十二師、九十六師、第二百師、二十八師、四十九師、五十五師、九十三師、二十八師、ビルマ第一師團その他約一個師團

交戰兵力計約五十三萬五千、撃滅せる兵力、兵團數約三十五個師團

俘虜　米軍二萬五千、英軍六萬四千（中カナダ兵一千六百、濠洲兵一萬七千を含む）、蘭軍九萬三千、その他十八萬五千（ビルマにおける重慶軍の俘虜および印度兵、ビルマ兵はほとんど解放せり）合計三十四萬三千四百

鹵獲兵器その他　火砲二千七百六十八門、自動車二萬一千五百八十九輛、飛行機千六百[illegible]、撃墜破せる飛行機千六百十四臺（中不確實二百四十四）、重機關銃[illegible]、撃沈破せる船舶[illegible]、魚雷艇五、汽船四十一、大破船舶約二百九十八隻、撃沈破せる艦艇、砲艦[illegible]、驅逐艦三、潛水艦二、魚雷艇五、汽船四十六

我方の損害　戰死九千百七十四、戰傷二萬七百二十、合計二萬九千八百九十四、飛行機三百四十八、船舶三十一隻（約十六萬トン）

南方占領地の現況

香港　面積一千方キロ、我が領土との比較、佐渡と壹岐を合せたものより稍大、人口百五萬、建設進捗狀況、占領地總督統治のもとにほゞ戰前の狀態に復す、造船所をはじめその他の諸工業も操業を開始し活況を呈しあり

フィリッピン　面積三十萬キロ、わが領土との比較、ほゞ本州四國九州を合せるものに同じ、人口一千六百萬、建設進捗狀況、軍政を施行バルガスを長とする行政府を組織せしめ概ね戰前の機構を以て行政を實施中にして、殆ど前の狀態に復しつゝあり

マレー　面積十三萬二千キロ、わが領土との比較、本州より奥羽、關東地方を除きたるものにほゞ同じ、人口五百五十萬、建設進捗狀況、軍政を施行、軍に軍政部、各州には知事（司政長官）を配置しあり治安良好にして資源開發豫定の如く進行中なり

ビルマ　面積六十七萬方キロ、わが領土との比較、ほゞ日本全土に同じ人口一千五百萬、建設進捗狀況、軍政を施行、中央行政機關設立準備中にして治安概ね回復し資源開發その緒につけり

ジャバ島　面積十三萬二千キロ、わが領土との比較、本州より奥羽、關東地方を除きたるものにほゞ同じ、人口四千百七十一萬、建設進捗狀況、軍政を施行、軍政部の行政要員は軍隊とともに上陸しその他の要員も逐次充足しあり、住民の對日感情も頗る良好にして開發豫定通り進捗しつゝあり

スマトラ島　面積四十五萬六千キロ、わが領土との比較、ほゞ本州と朝鮮を合せたものに同じ人口七百九十八萬、建設進捗狀況、軍政を施行、各州には知事（司政長官）以下所要の行政要員を配置すべく目下逐次進行中にして治安頗る良好、資源の開發も豫期以上に進捗しつゝあり

ボルネオ島その他　面積八十二萬五百方キロ、わが領土との比較、日本全土の一・二培強、人口六百四十四萬、建設進捗狀況、行政要員逐次到着し建設は豫定の如く進捗中なり合計、面積二百五十二萬一千五百方キロ、わが領土との比較、日本全土の三・七培強、人口九千三百六十八萬

詔書

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ皇祚ヲ踐メル大日本帝國天皇ハ昭ニ忠誠勇武ナル汝有衆ニ示ス

朕茲ニ米國及英國ニ對シテ戰ヲ宣ス朕カ陸海將兵ハ全力ヲ奮テ交戰ニ從事シ朕カ百僚有司ハ勵精職務ヲ奉行シ朕カ衆庶ハ各々其ノ本分ヲ盡シ億兆一心國家ノ總力ヲ擧ケテ征戰ノ目的ヲ達成スルニ遺算ナカラムコトヲ期セヨ

抑々東亞ノ安定ヲ確保シ以テ世界ノ平和ニ寄與スルハ丕顯ナル皇祖考丕承ナル皇考ノ作述セル遠猷ニシテ朕カ拳々措カサル所而シテ列國トノ交誼ヲ篤クシ萬邦共榮ノ樂ヲ偕ニスルハ之亦帝國カ常ニ國交ノ要義ト爲ス所ナリ今ヤ不幸ニシテ米英兩國ト釁端ヲ開クニ至ル洵ニ已ムヲ得サルモノアリ豈朕カ志ナラムヤ中華民國政府曩ニ帝國ノ眞意ヲ解セス濫ニ事ヲ構ヘテ東亞ノ平和ヲ攪亂シ遂ニ帝國ヲシテ干戈ヲ執ルニ至ラシメ茲ニ四年有餘ヲ經タリ幸ニ國民政府更新スルアリ帝國ハ之ト善隣ノ誼ヲ結ヒ相提攜スルニ至レルモ重慶ニ殘存スル政權ハ米英ノ庇蔭ヲ恃ミテ兄弟尚未タ牆ニ相鬩クヲ悛メス米英兩國ハ殘存政權ヲ支援シテ東亞ノ禍亂ヲ助長シ平和ノ美名ニ匿レテ東洋制覇ノ非望ヲ逞ウセムトス剩ヘ與國ヲ誘ヒ帝國ノ周邊ニ於テ武備ヲ增強シテ我ニ挑戰シ更ニ帝國ノ平和的通商ニ有ラユル妨害ヲ與ヘ遂ニ經濟斷交ヲ敢テシ帝國ノ生存ニ重大ナル脅威ヲ加フ朕ハ政府ヲシテ事態ヲ平和ノ裡ニ囘復セシメムトシ隱忍久シキニ彌リタルモ彼ハ毫モ交讓ノ精神ナク徒ニ時局ノ解決ヲ遷延セシメテ此ノ間却ツテ益々經濟上軍事上ノ脅威ヲ增大シ以テ我ヲ屈從セシメムトス斯ノ如クニシテ推移セムカ東亞安定ニ關スル帝國積年ノ努力ハ悉ク水泡ニ歸シ帝國ノ存立亦正ニ危殆ニ瀕セリ事既ニ此ニ至ル帝國ハ今ヤ自存自衞ノ爲蹶然起ツテ一切ノ障礙ヲ破碎スルノ外ナキナリ

皇祖皇宗ノ神靈上ニ在リ朕ハ汝有衆ノ忠誠勇武ニ信倚シ祖宗ノ遺業ヲ恢弘シ速ニ禍根ヲ芟除シテ東亞永遠ノ平和ヲ確立シ以テ帝國ノ光榮ヲ保全セムコトヲ期ス

御名御璽

昭和十六年十二月八日

商船十九隻を撃沈

獨潜艦カリブ海で活躍

【ベルリン六日同盟】デーエヌビー通信の報道によればカリブ海方面に出動中の獨潜水艦はアンテレス群島および、東部大西洋水域において商船十九隻、合計十萬八千トンを撃沈赫々たる戰果を收めた

英機十四撃墜

伊軍司令部發表

【ローマ六日同盟】伊軍司令部六日發表

一、北阿戰線マルマリ河地區の獨伊作戰は順調に進展しつゝある英砲兵、裝甲車隊の援護による英軍は伊軍陣地に突撃を企圖したが猛反撃を浴びて退却、裝甲車卅六台、貨物自動車十台が破壞され數百の捕虜を出した

一、空軍部隊は惡天候を冒して活躍、英機十四機を撃墜、六機を不時着せしめた

坪上大使歸任

【バンコック六日同盟】本省に報告のため歸朝中であつた坪上大使は六日午前九時十四分空路バンコックに歸任した

宣戰の大詔拜してこゝに半歳

【東京電話】昨年十二月八日米英に對し宣戰の大詔渙發せられてより早くも半歳、東亞における米英蘭濠の對日進攻基地はその悉くが皇軍精鋭部隊に席卷され、戰前宣傳された對日包圍陣はこゝに全く潰え去つて大東亞における彼我の戰略態勢は一變して壓倒的優位となり、今後の積極的作戰へ飛躍的地歩を確保するとともに、この雄渾なる作戰においてわが軍は南方重要資源の大部分を掌中に收めた、この占領地域には、軍政を布き練達堪能な司政長官を多數派遣して早くも占領地經營の衝に當らしめつゝある、今、米英撃滅の陸軍南方大進軍の後を地域的に辿つてみよう

陸軍、南方大進軍の跡

早くも進む共榮圏の大建設

支那方面

開戰とゝもに天津、上海、廣東の敵租界を接收、上海においては米砲艦一隻を拿捕、英砲艦一隻を撃沈し、一方、中南支全戰にわたり重慶軍蠢動の先手を打ち掃蕩戰を行つた

香港方面

香港要塞攻略部隊は十二月八日午前三時四十分深圳南方國境を突破、同夜香港要塞の、本防禦線攻略に着手、猛攻を續行、十二日には一擧に香港島を攻略する態勢を整へた、翌十三日、十七日の二回にわたつて軍使を派遣、降伏を勸告したが應ぜず、十八日一齊に攻撃の砲門を開くとゝもに同夜九時五十分敵前上陸に成功、十九日早曉より掩護砲撃を得て敵陣に猛攻を重ねつひに廿五日午後五時五十分、わが強壓に堪へかねた英軍一萬は無條件降伏わが軍は同要塞を完全に占領した同時に香港方面陸軍最高指揮官は酒井隆中將と發表された

比島方面

開戰當日陸海軍航空部隊は直ちに空襲を開始、陸軍部隊は十日未明ルソン島北部ヴイガン方面に第一回の上陸を敢行して成功、ついで南部レガスピー方面にも奇襲上陸した、また廿二日わが精鋭主力は同島南北両方面に進撃據點を確保突如ルソン島西北部リンガエン灣に上陸して南下、これに呼應して四日他の主力精鋭またラモン灣に上陸して北上、卅一日には南北両部隊はマニラ市を完全に包圍、一月二日攻撃を開始、同日午後三時つひに首都マニラを完全に占領十萬餘の米比聯合軍を隨所に蹴散らし殘敵をバタアン半島およびコレヒドール要塞に追ひ込み包圍態勢を取つた、一方十二月廿日未明ミンダナオ島にも上陸し同日午後五時早くも主邑ダバオ市を完全に占領、在留邦人一萬八千餘名を救出した、かくてダバオの確保と相俟ちマニラ攻略により比島主作戰に一應の終止符を打つに到つた、ルソン島においては依然一部兵力をもつてバタアン半島方面の敵兵封鎖の作戰を取り、これに當つた部隊は一月廿六日バランガ市街ナチブ山を繋ぐバタアン北半の敵主抵抗線を陷し同日ナチブ山以北を掌握し敵はわづかにマリベレス要塞とコレヒドール島の最後の抵抗線に據ることゝなつた、わが方はバタアンに集結し得る最大限の兵力と近代兵器の粹を集中し四月三日午前九時を期して總攻撃の火蓋を切つた、また航空部隊は猛撃を反復八日には敵最後の抵抗線リマイを完全に占領、續いて九日マリベレスを奪取總攻撃開始以來わづか八日にしてバタアンの頑敵を撃滅した

コ島陷落

最後の逃げ場コレヒドール要塞に立て籠る米比軍に對しては五月五日夕暮午の節句を期して壯烈な〃止めの上陸を決行した、脱出の望み全く斷たれた敵全軍は大混亂に陥り七日午前八時つひにコレヒドール要塞および附近の全要塞を完全に攻略したマニラ攻略以來滿四ケ月、これでわが比島戰定作戰は所期の目的を達成し、同方面陸軍最高指揮官は本間雅晴中將と發表された

マレー方面

マレー方面陸軍最高指揮官山下奉文中將麾下の精鋭が堂々シンゴラに上陸したのは昨年十二月八日午前四時十二分であつた、この主力上陸に次いでマレー東岸要衝コタバルに敵前上陸を敢行、その一部は大膽な夜襲戰をもつてジットラ・ラインを突破してマレー縦貫鐵道に沿つて南進、コタバルに上陸した東岸部隊はクランタン、トレンガヌ両州の海岸に沿うて南下シンガポール要塞目指して進撃した、マレー半島の攻略戰が戰史稀にみる大成功裡に成功したのはわが軍の機械化裝備の優秀性と空軍部隊の連繫がきはめてよく空地一體の典型的立體作戰を行つたからである、わづか九十五日にして千一百キロのマレー半島を席卷したのは支那事變においてさの神速ぶりを謳はれた漢口攻略戰をはるかに凌ぎ、また電撃作戰をもつて鳴るドイツ軍の東部作戰における進撃記錄一日十九キロもわがマレー進撃軍の平均二十キロの神速さには到底及ばないしかもマレー戰線は酷熱百二十度の灼熱のジャングル戰場であり、敵に破壞された大小二百五十餘の橋梁を修理しつゝ進撃したのである、主戰闘は前後を通じて九十二回に及び一日平均二回の激戰を重ねたことになる、特に卅一日ペラ州のルムトを確保した西本進撃部隊が南進する主力に相呼應し突如卅艇機動作戰に轉じマラッカ海峽を南下した巧妙大膽な新作戰がシンガポール要塞總攻撃態勢の確立に大いに役立つたことを銘記すべきである

シ島攻略

わが猛攻の前にはシ島の天然の要衝も人工の防備もつひにものゝ數ではなかつた、わが軍は空軍大編隊の支援下にジョホールバルよりシンガポール島の敵前強行渡過に成功し、二月九日午前零時その一角を確保して大要塞壞滅の總進撃に移り、早くも十五日午後七時五十分シンガポール要塞の敵軍を無條件降伏せしめ、パーシバル英東亞軍司令官以下九萬五千名を俘虜とした、シンガポールはその後名も昭南島と改めて東亞共榮圏の一環として更生こゝにマレー建設の大偉業が開始されたのである

ビルマ方面

ビルマ方面陸軍最高指揮官飯田祥二郎中將麾下のわが部隊はビルマ南部の要衝モールメンおよびタヴオイに進撃を開始したのは一月中旬であつた、この進撃に引續き盟邦タイ國も對米英宣戰布告を發して一齊にビルマ進撃を開始したことはビルマ作戰の特色である、ビルマ作戰軍は嶮々たる山嶽を突破し、一大山岳戰を展開しつゝ都入的強行猛撃を繰返して三月八日には早くも首都ラングーンを完全に占領した、當時重慶軍主力はマンダレー附近に集結をはじめ北部タイ國境には三個師團を配しわが軍の側背を脅威せんとする態勢をとつたので、わが軍は殊更にこの敵を無視するが如き態度をとり、重慶軍に側背を暴露してラングーン北方から攻撃し重慶軍誘出の戰法をとつた、果せるかな、重慶軍はわが術策に陷り皇軍の兵力を過少評價し積極的にマンダレー南方に進撃し來り、三月中旬には重慶軍を主力とする四萬五千は、ラングーン、マンダレー本道上に英印ビルマ聯合軍は、イラワヂ河の流域に布陣した、そこでわが軍はサルウイン河とイラワヂ河に沿ふ両翼とビルマ鐵道に沿ふ中央進撃部隊の三方面より敵を北進を開始し、サルウイン河に沿うて北進した右翼部隊は嶮峻な山岳地帶を踏破して迂回作戰に出で、四月廿九日には早くも要衝ラシオを抑へ他方左翼部隊は遠く印度ビルマ國境の要衝アキヤブ飛行場をはじめカレワを確保し、五月一日中央進撃軍がマンダレーにおいて一日七十數キロといふ神速進撃に移るやこれと呼應して進撃目標を北部ビルマの敵牙城ミイトキーナにとり、右翼部隊また敵の遺棄せる機動兵器を利用して援蔣ルートを遮斷する敵の退路に移り、五月五日には緬支國境を突破して雲南省龍陵を占領し十日には怒江々畔の騰越を確保して重慶英米の連繫を完全に切斷し重慶を全く孤立に陷らしめたかくて全ビルマを戡定した

蘭印方面

ボルネオ＝客年十二月十六日未明わが精鋭部隊は英領ボルネオのミリ、ルトン、セリヤ三方面の上陸に成功しまたゝく間にブルネイ、クチンを占領し上陸以來僅か十六日にして全英領ボルネオを制壓した、さらに攻撃を蘭領に伸ばし坂口兵團主力はボルネオ島攻略部隊とともにタラカン附近に奇襲上陸、こゝに大東亞戰最初の蘭印軍との戰闘を交へ、遂に十二日タラカンを占領、さらに南下してバリックパパン、パンジエルマシンを完全に占領、他の一隊は一月廿七日西部の要地パマンカツトに奇襲上陸、一部をもつてサンバスを攻略するとともに主力は海上機動をもつて首都ポンチヤナツク附近に上陸僅か二日で一月廿九日ポンチヤナツクを占領、ボルネオ全島の戡定は遂げられた

スマトラ島＝シンガポール陷落に先立ち二月十四日スマトラ島の要衝パレンバンの油田地帶に陸軍落下傘部隊は初陣の勇姿を現し、十五日ムシ河を溯航進撃した地上部隊と協力、十七日パレンバンを完全占領、ジャバ島の咽喉タンジユンカランをはじめラハトコタアクン、ベンクレーン、ジヤンビーなどを相次いで攻略し、一隊は二月十五日バンカ島ムントクに上陸しバンカ海峽を扼した、三月十二日以來各地に掃蕩戰を續行したが、三月十七日に至り蘭印軍スマトラ總指揮官オブヒアーカー少將は全面的に降伏こゝにスマトラ全島の戡定はなつた

ジャバ島陸軍部隊は二月十九日バリ島に上陸、東西からジャバ島攻撃態勢を完成し今村最高指揮官麾下の精鋭は三月一日アウラン岬、パトロール附近、クラガン附近の三ケ所に敵前上陸を敢行坂口兵團はダバオ上陸戰より六段跳びで東部ケラカンに上陸三月七日早くもスラバヤに突入し、主力はレンバン、スラカルタをつき、ジョクジヤカルタを拔いてチラチヤツプを攻略、西部アウラン岬に上陸せる部隊は二隊に分れ三月五日首都バタビヤを次いで要衝バイテンゾルグを攻略、バタビヤ攻略部隊およびパトロール上陸部隊と相呼應して敵主力をスラバヤ、バンドンの両地に包圍し猛攻を加へた、敵は三月九日遂に白旗を掲げてわが軍に降伏し來り、上陸後僅か九日にしてジャバ全島はわが軍門に降つたのである

米英商船二隻沈沒

【リスボン六日同盟】ワシントン來電によれば米海軍當局はカリブ海において中型米商船および小型英商船各一隻が樞軸國潜水艦の攻撃をうけて沈沒した旨六日發表した

狼狽する重慶軍

衢州城攻略の意義重大

【衢州前線〇〇六日同盟】わが軍は豪雨、泥濘を冒して激闘四日遂に衢州周邊の殘敵を殲滅し衢州城を攻略したが本會戰はさきの金蘭會戰に匹敵すべき重大意義を有し、軍事的、政治的、經濟的に敵第三戰區の死命を制したのみならず、重慶政權そのものに重大打撃を與へたものといふことが出來るすなはち敵は今次作戰の目的を金華、蘭谿の占領にありと誤認しかかる大進撃を全く豫想してゐなかつたがわが軍は長驅四百キロ深く浙贛平地に突入して第三戰區の敵主力および第九戰區より急遽増援せる第二十六軍その他を一擧に潰滅し去つた

巨人南總督の足跡

兵站基地の實力

躍進する工業生産

五年間に激増二倍半

農工駢進政策

近代國防の要諦は、兵略と共に經濟の確保が第一義的な重要性を持つ。高度國防國家完成へのスタートは、この理念のもとに、時局下の至上國策として國内經濟再編成の一大轉機を劃した。資源地半島が、その最も大なる對象とされたことはいふ迄もない。かくて南總督の金科玉條たる農工駢進政策は興亞途上の大きな威力として政府は勿論有力企業家の重大關心を喚つたさらばこそ、前章に述べた二回の大經濟會議は未曾有の成果を擧げ、國防基地半島への施策も極めて順調に進展しつゝある。

官民の積極的協力

この意味において、今日の半島重工業化に見られる内地資本の誘致、重要産業の開發助成は、字垣政策と、その本質を異にしてゐる。即ち、字垣政策は半島自體の繁榮を第一義としてゐたのに對し、南政策はこれを時局との關聯において、帝國の國防乃至は東亞新秩序建設への貢獻を重點としてゐる。從つて、まづ、その計畫性において格段の飛躍が見られ、官の施設、民間の協力において極めて積極的である。農工駢進の具體的方策は

一、食糧增産計畫

一、水力電源開發の促進

一、金增産計畫の大更新

一、重化學工業の誘致

一、鐵鑛資源その他特殊鑛資源の開發

一、石炭の大增産計畫

一、水産業の擴充强化

一、交通網の擴充强化

等を主要なるものとして擧げられる。而して、その具體化に對する熱意は、總督府の豫算面がこれを如實に物語つてゐる。

彪大十一億豫算

字垣末期、即ち昭和十一年度における總督府豫算は三億三千萬円、これが南中期の昭和十四年度には七億四百萬円、更に本十七年度は十一億二千四百萬円と飛躍、殆ど三倍半に近い大膨脹を示してゐる。而してその新規增加の大部分が農工生産力の擴充に充てられてゐる。最近のものについて見ても、昭和十六年度新規增加額二億五千九百餘萬円の中、金及び重要鑛物增産獎勵に關する經費、食糧對策施設に關する經費、生産力擴充に關する經費等、總生擴經費の總額は實に三千萬円を突破、同十七年度には更にこれに調査試驗費を合せて新規增加額三億餘萬円の中五千六百餘萬円に上つてゐる。この外、時局對策費、交通及び通信擴充費、營林費、鑛業及び土木費その他等、生擴と關聯する經費が臨時軍事費特別會計繰入金（昭和十六年新規繰入增加額四千六百五十萬円、同十七年度一億一千六百萬円、昭和十七年度繰入總額は一億六千三百萬円）を除く殆ど大半を占め、このことは、總督府財政が如何に時局と生擴に腐心してゐるかを示してゐる。

新規生擴費の内容

更にこの十七年度新規生擴費の内容を見ると、その主なるものは一千萬石增米計畫、特殊鑛物增産助成金並に鑛業行政、施設の强化擴充、及びこれに關聯を有する電力統制、勞務供出機關の擴充等で、その内容は、總督府の農工生産力擴充に對する重點主義を示唆してゐる。即ち、字垣末期から今日にかけての總督府豫算の新規膨脹の大部分は、農工生産力の擴充に注ぎ込まれたのであり、然もそれは、高度國防國家體制の近代的基地化を目標とする遠大なる計畫のもとに、半島産業經濟の再編成が强行されたのである。

飛躍的な工産高

この南政策の熱意を端的に反映せしめてゐるのが工業生産高の飛躍的上昇である。即ち昭和十一年において七億三千萬円の工業生産高は昭和十五年度に於て十八億七千萬円實々五ケ年の間に實に二倍半以上、更に今日では三倍半以上と見られる情勢にある。又、之を業種別に昭和十一年と同十五年度を對比して見ると紡織工業九千八百萬円が二億三千萬円、金屬工業三千三百萬円が一億三千萬円、機械器具工業千四百萬円が七千七百萬円、窯業二千萬円が六千萬円、化學工業一億萬円が七億萬円、木材工業一千萬円が三千五百萬円、印刷製本業一千三百萬円が一千九百萬円、食料品工業一億九千八百萬円が三億七千萬円、瓦斯電氣業四千萬円が二千七百萬円、その他一億四百萬円が一億一千萬円

實に百二十五倍

明治四十四年の工産高千五百萬円に比較すれば、昭和十五年度のそれは實に百廿五倍といふ破天荒のものである。茲で注意すべきことは、農産擴充の場合は、大體その成果は、官の施策宜しきによつて決定されるのであるが、工鑛業における生擴の場合は、官の施策とゝもに半島自體のもつ經濟的立地條件、企業家の半島認識等が、その大きな要素となり、しかも、それは先決條件でもある。南總督はこといふ内容を示し、大膽な破格に順調な飛躍を見せつゝあることは半島工業が徒に時潮に乘つたものではなく、根を据ゑた大勢を窺ふに充分である。即ち半島産業の近代化は時局の推進と同時に非常なる當局の熱意とこれに追隨した企業家の協力とに依つて、こゝに磐石の基礎が打ち樹てられたのである。

大乘經濟の巨線

即ち、半島の産業經濟はこの新しき計畫經濟のもとに今日よりも、將來に重點が置かれた。即ち、過去における自給政策は一擲され、新しき、國家經濟の要點として、東亞共榮圏經濟の先鋒を承つたのである。字垣重工業化政策との根本的相違は、即ち、こゝにある。農業政策と雖も、固よりこれと揆を一にして行はれ、すべての舊衣は脱ぎ捨てられて、新しき大乘經濟の巨線はこゝに全く劃定されるに至つたのである。の條件に對して明敏であり、施策に對して極めて熱心だつた。然もその政策は常に高度に着目し、時局に對して適切であつた。故に苟くも糊塗を許さず、常に將來に囑目して緻密な計畫を樹てた。

蠶産業

惡條件を見事克服　豐作氣構へ濃厚
南鮮地方早くも出廻る
佐藤記者

記者は六月一日京城驛を發つて先づ足を湖南線に向け、全羅南道長城、羅州邑を中心とする養蠶部落を視察の後、逆行して大田より京釜線に乘り替へ、一路南下して慶北清道、慶南密陽附近の養蠶部落に入り、六日夜京城に歸任した、端的にいへば、記者の視た範圍では、本年の春蠶は確かに豐作であつた、かの大旱害を蒙つた昭和十四年の秋蠶の不作以來十五年は桑田の霜害未だ回復しなかつたのと、水害のため十六年は局部的な霜害、多濕による病害の發生など一般的に不作を續けて來たのである、既に本年も春以來の多濕低温のため作柄の豐凶を決するといふ稚蠶飼育の條件は甚だ惡く前途は大いに憂慮されてゐたのであるが、四齡乃至五齡期に至つて天候が回復を得たのと、指導當局及び業者の飼育技術の研究と努力によつて、稚蠶期に幾分の違算を見たとはいへ、見事に惡條件を克服して豐作を豫想せられるに至つたことは、關係者の血の滲むやうな努力の賜物と信じて疑はない、全南では、既に三日よりぼつ／＼共販が開始されてゐたが、記者が訪れた長城、羅州は四眠乃至五齡の時期で、虫も太く作柄は極めて良好であつた、同地方は稚蠶飼育の技術改良によつて三、三齡期の遲蠶が防止されたゝめ、かなり桑葉の不足が豫想されてゐたのであるが、記者の見たところでは、先づ桑は見え、あと一息で大豐作を得るものと見られた、清道附近では總じて上簇してゐたが、散蠶された蠶座の桑は一葉も餘されてゐないところから見て、虫の數が豫想以上に多かつたことが察せられた、密陽では、時局の關係から内地人養蠶家の集合地である社禮里の復興組合のみを視察したが、此處では早くも各戸の庭先で繭搔の最中であつた、白毎に白銀の山が積まれ、老いも若きも繭搔に餘念がなかつた、七日の共販第一日に、この部落のみで三千貫は出るであらうといはれてゐた、二十數年に及ぶ經驗と熟練によつて、全部落は數年全鮮一の好成績を擧げてゐるが、本年も平付繭量一枚當り十三貫乃至十五貫といふ驚くべき好成績を擧げてゐた、稚蠶期の天候不順、勞力の不足、桑田の肥料不足などの惡條件に拘らず全般的に、かゝる好成績を收め得たことは關係者の尊い努力の結果と感激を表すると共に今後の共販供出に最後の頑張りを發揮されんことを期待する

◇◇◇◇◇

大成功の與蠶會
……實現した稚蠶の共同飼育……

全羅南道長城邑東山神社の外苑に「蠶神」が祀られてある、昭和十六年五月卅日、伊勢神宮より御神靈を迎へて奉遷したのである、これこそ、全鮮唯一の〝蠶の神様〟である、養蠶の神様をいたゞいて奉齋報國に邁進する長城郡は全南隨一の養蠶郡である、記者は柳技手の案内で内地人養蠶家が組織する與蠶會と、蠶業をもつて更生したといはれる長城面南耕里の二部落を視察することが出來た、南耕里は廿六戸からなる部落で一戸當り一枚乃至二枚を飼育してゐたが、この部落を今日あらしめた中心人物、金氏時役面長が會議のため不在であつたので、その更生に至る經緯を知ることが出來なかつたが、蠶は恰度四眠に入つてゐた、今年は不思議なほど遲蠶が動く、村人は〝これでは却つて桑が足らぬ心配がある〟と、頗る朗かであつた、次に訪れた部落は、長城邑を中心として點在する内地人養蠶家で組織された二組合の一つ……

でなく、桑の發育と完全に歩調が合つたゝめ、何等の不安なく、早くも大豐作を豫想されてゐる、從つて、此處三、四年に亘つて不作を續けた同部落の人々は、數年の惱みを一氣に晴さんものと意氣込んでゐる……

占領地わが全土の
三・七倍以上に及ぶ
重要資源殆ど我が手中

【東京電話】米英撃滅の大聖戰つてこゝに半歳、この間帝國陸軍部隊は支那における敵性國租界進駐を皮切りとして香港、マレー、蘭印、フイリッピン、ビルマにあつた敵國戰略軍の陸上武力を殲滅、南方要域における一億四千餘萬の東亞諸民族を米英の暴政、搾取から解放するとゝもに、日本全土の三・七倍以上に及ぶ南方占領地域重要資源の殆どを大東亞共榮圈下に收め、印度、濠洲、重慶を隨時に制壓する强固な戰略態勢を確立したわが陸軍は滿洲事變を契機として大陸防衛の最前衛となり、支那事變においてその實力を遺憾なく發揮して、米英勢力驅攘の措置を築き今次大東亞戰爭による南方確保によつてこゝに大東亞防衛の鐵壁の布陣を完成した、大本營陸軍部の綜合發表によつて米英蘭軍作戰のあとを顧みれば南方作戰地域において、交戰兵力五十萬五千を有する敵陸軍約三十五個師半を殲滅し、……三十四萬二千名を捕虜としてゐる、これをさきに作戰地別に見ればビルマ方面軍（飯田中將）が十三個師、フイリッピン方面軍（本間中將）が十二個師、マレー方面軍（山下中將）六個師半、蘭印方面軍（今村中將）が四個師、香港作戰軍（酒井中將）が一個師團を各個に撃破してをり……

敵機撃墜破數が一、一〇〇機に上つてゐるのは今次作戰において航空部隊が敵地を推進した戰爆連合の大作戰を行つたことゝ攻撃精神の旺盛なることに基因するもので、この航空部隊の赫々たる戰果こそ地上部隊の敵前上陸を初め諸作戰を可能ならしめたのである、以上の如く南方の赫々たる戰果の陰にあつて支那方面作戰軍は南支、中支、北支、蒙疆の戰野にあつて默々と重慶制壓の軍を進め、大東亞戰以來六ケ月間に百五十二萬の重慶軍と交戰これを所に撃破し、その十一萬二千四百を倒し、四萬四千を捕虜とする大戰果をあげ北邊鎮護に任じてゐる關東軍とゝもに南方作戰軍をして後顧の憂ひなからしめたのである、この米英蘭戰において南國の戰野に散華或は戰傷したわが軍の損害は戰死者九、七四名、戰傷者二〇、七二〇名、合計二九、八九四名である、また飛行機三百八機、船舶三十一隻（約一六萬トン）を喪つた、以上の如くわが南方作戰は戰史に比類なき赫々たる大戰果を收めたが香港をはじめフイリッピン、マレー、蘭印、ビルマなどわが軍の占領した總面積は實に二百五十二萬一千五百十平方キロの廣大に及び、わが本土の三、七倍強に達しその人口は九千三百六十八萬に上りわが國人口とほゞ匹敵する、またこれら地域内の主なる資源を見るに石油九百八十一萬トンを初め、砂糖二百七十二萬トン、ゴム七十六萬トン、埋藏量約十九億トンの鐵、石炭資源、キナ一萬トン、チャフマン八千トン、米五百萬トン、タングステン五千トン、クローム一萬二千トン、錫十一萬トン、マンガン四萬九千トンおよびマニラ麻五百萬俵に及んでゐる、これら南方重要資源はその悉くが大東亞共榮圈の傘下に收められ、米英が多年獨占した資源はわが方の掌握するところとなり、米英撃滅の長期戰完遂の磐石の基礎はこゝに築かれるに至つた、かくて雄大潑剌たる大東亞共榮圈建設のための南方開發具體策が樹立され、作戰即建設の線と沿うて陸軍では占領地域に軍政を布き、各界の練達有能なる人材を簡拔軍政顧問に任じこの下に多數の司政長官と司政官を任命、現地に派し香港總督部創設を初めマレー、比島、蘭印、ビルマの南方占領地域において行政機關を確立しこれと併行して治安の維正、資源の開發などの急しき建設譜が奏でられてゐる

ル大統領に哀訴
食糧難に惱むソ聯

チウリツヒ特電【六日發】大西洋及び北氷洋海域におけるドイツ潛水艦の活躍とこれによる聯合軍船舶の喪失は絶ゆることなく益々激化しつゝあるが、當地で傍受したモスコー放送によればかゝる聯合軍船舶の喪失は聯合國よりの對ソ食糧品輸送に直接影響を與へつゝあり、これがためソ聯の食糧需給計畫は齟齬を來し若干の地域において不足を生じてゐる、而してスターリン首相は六日この不安除去のためルーズベルトに對し聯合軍勝利のために如何なる犧牲を拂つても早急に對ソ食糧輸送遂行に努力されたいと要求したと傳へられる

戰車廿臺屠る
獨軍司令部發表

【ベルリン六日同盟】獨軍司令部六日發表

▲東部戰線

一、セバストポリ包圍戰において獨軍は砲兵攻撃および空軍の爆撃によりソ聯軍要塞を爆碎し

一、南部地區では獨共聯合軍はソ聯軍の攻撃を撃退多大の損害を與へた

一、ブオルコフ河地區（レニングラード東方）に進出せる獨軍部隊は獨急降下爆撃隊との協力作戰によりソ聯軍の强襲を撃退多大の損害を生ぜしめ戰車二十二輛を喪失せしめた

一、フインランド灣水域において獨海軍はソ聯潛水艦一隻を砲撃命中彈數發を與へこれを大破したがその撃沈は確實である

▲北阿戰線

一、獨伊聯合軍は英軍の猛攻を撃退した

一、空軍部隊は英空軍と空中戰において十四機を撃墜、また五日夜獨急降下爆撃隊をもつてトブルク港灣地帶に猛爆を加へた

養蠶部落を觀る
佐藤特派員

……とするものであつて、桑田の絶對量を減少せしめんとする意圖は毫も含まれてゐないのである、即ち、防空壕や、堤防、鐵道など從來放置されて顧みられなかつた方面へ新しき國土利用の途を開きつゝ桑田の擴張が行はれてよいのである

蠶糸が現在我國唯一の貴重なる纖維資源であることは論を俟たないが、更に目下作戰進行中の南方資源のうち、マニラ麻を主とする硬質纖維、印度、濠洲の羊毛と共榮圈に三大纖維資源を得るとしても、わが蠶糸は、その優秀なる特性と日本々土の唯一の纖維資源たる重要性を失ふものではない、

代替品ち衣料、漁業用漁網、羊毛品に、一般需要は益々擴大を豫想されるほか、加工法の進歩によつて、代用皮革、工業用纖維代用品、軍用纖維、飛行機その他のタイヤー材料、パラシュート等、特殊用途、軍需用途に偉大なる役割を果しつゝある、かの落下傘部隊の一員がその傘に身をまかせ錦々と任務を果し得ることを事實はわれ／＼の記憶に新しいものであるが、これこそ我が國産生糸の優秀性を示唆して餘りあるものである、かくの如く、一般、特殊需要における蠶糸の重要性を認めた總督府當局では蠶繭増産方針を確立し、在鮮養蠶家の七割乃至八割を占める小規模（掃立蠶種一枚以下）の養蠶家をして必ず春一枚秋半枚、計一枚半以上の掃立を行はしむべく濃厚な指導を加へる一方、内地における遊休織機を移駐し、漸次從來の内地依存を離脱し、鮮内絹織物の自給自足を確立しようとしてゐるのである、かくてわが蠶糸業は過去の外需依存を一擲し劃期的に大きな轉機を與じたのであるが、同時に先般施行された朝鮮蠶絲統制令によつて名實ともに國家と運命を同じくするに至つたのである

卽ち統制實施の意義は重大である計畫生産の實施を伴ふ令繭を軸として完全なる國家意志の下に運營されると同時に適正なる價格の決定によつて、過去の如き外部的景氣變動に支配される不安が排除され、農家の副業として確固たる安定が與へられ、從つて養蠶家の進むべき途が明かにされたのである、養蠶家は何等外部的情勢に煩はされることなく

ひたすら飼育技術の向上、桑田の肥培管理に努力を傾け、増産と生産コストの引下げに邁進されればよいのである、此際に注意すべきは、自家消費の可及的抑制によつて、貴重な資源のロスを最少限度にとゞめることである、本府當局ならびに統制會社ではこれがため全鮮繭の約五割、三百十五萬貫を共販に出荷せしめんとして力を注いでゐる、本年は幸に作柄もよく、増産を見込まれてゐるので從つて共販出廻りも相當の活況を呈するものと見られる、本紙では、統制令實施初年度の養蠶家の氣構へと、旺盛な努力不足を切り拔けつゝ増産に敢鬪しつゝある業者の實情を傳へるため、養蠶地區の部落を現地視察の上報告することゝしたのである

堆高き白銀の山
共販開始の密陽復興村

慶南道一の養蠶地密陽に入る、元老蠶見道會議員をはじめ武内、西村兩技手、館石製糸工場主、井上東亞蠶糸出張所長、蠶種製造家荻野繁雄氏等に迎へられ、先づ蠶見さんより徒らに優良品種を選ぶより失敗の少い健全な品種によつて養蠶家の安定を圖るべきであるといふ氏獨特の適良品種論の一くさりを全南の實例と照し合せて興味深く聞いたうへ蠶林、岐山の兩面にまたがる内地人養蠶家六十戸からなる復興組合を訪れた

同組合は二十數年の歷史を有しその產繭成績は恐らく全鮮一であらうと思はれる、慶南蠶種の八十五パーセントを占めると言ふ密陽蠶種の優秀な故もあるであらうが平付一枚で平均十三貫から十五貫の收繭を擧げてゐる實に驚くべき成績である、現在桑田五十五町歩を有し春蠶掃立七百枚、四千貫はこの一組合をもつて供出し得るであらうと見られてゐる

然し、今日の鞏固な基礎を築くためには復興組合のその名が示すごとく幾多の浮沈を經て來たものである、福岡縣人を主とする内地人が同地方に移住して來た當時は主として煙草の栽培に從事したものであるが同地方が煙草の適地でない關係から專賣局が漸次栽培地を移したゝめ大正五年から煙草の乾燥小屋を利用して養蠶に轉向したのであつた、然しながら一同が養蠶の素人であるため品種の關係から數年續いて全滅を續けたのであつた、蠶見氏の思ひ出によると當時數人の代表が夏羽織を着込んで朝鮮產の蠶種は駄目だ、なんとかして欲しいと陳情したものださうである、既に蠶見氏は責任を感じ、以來所謂る適良品種論を振りかざし働く成功を收めたのである

中來同部落は地主關係から二派に別れ深刻な爭を續け當局者の調停、蠶見氏の努力にも拘らず一體となり得なかつたのであるが大正十四年の大水害で全滅に瀕したとき兩者の代表神代市藏氏、安永運平氏、官當局、蠶見氏の努力が實を結び復興組合として大同團結、今日の盛隆を見るに至つたのである

記者が同部落に入つたとき、折柄の晉葉が霧を落してゐる各戸の庭々には堆高き白銀の山が積まれ半島婦人たちが默々と繭搔に餘念がない、どの家も／＼明日（七日）の共販第一日を控へて繁忙を極めてゐる、或る家では今年七十八歳になるといふ翁が家族と混つて繭搔に働いてゐる、一部に白殭病の出た農家もあつたが、全般的には……

非常な豐作で誰も堅く相當の目方が出ると思はれた、一農家では、〝私らは絶對に遲蠶はやめません、農家はどうしても蠶を飼はなくてはいけません、先づ一年中の燃料がとれる、そして飼料、肥料がとれる、たとひ全滅しても蠶は飼ひます〟と語つてゐた、そして〝明日の共販には組合の七割方出るでせう……さあ第一日だけで三千貫ですかね〟と頼母しき限りである、これら良質の繭は總て館石製糸で全部糸にされるのである、郡當局では今次の桑田減反も理解ある同組合の措置によつて全般的に何等の精神的影響を與へずに實施されたのである

以上をもつて、記者の感想を述べると減反は實質的に影響するところは殆んど皆無である、ただ作付轉換と言ふ文字が精神的に可成響いてゐたやうである、次に勞力の爭奪である、これは適正な配分計畫を樹立して最下部に至るまで計畫通りに實施せしむるやう努力せねばなるまい、蠶糸統制令は一般に養蠶家の肚を決めさせ好影響を與へてゐるが自家消費をある程度公に認めた點にいさゝか疑問があるやうであつた、然し、これは織物の配給計畫を伴ふ關係上早急に實現され得ないであらう……

畦畔植桑の威力
慶北清道郡養蠶の特徴

全羅南道に於ける中川道技師、米山、柳瀬技手、馬淵、石川、宮崎氏等との懇談會をもつて切りあげ記者は踵を返して慶北清道郡に足を伸ばした、日高道技手、長谷川、平野技手の案内で全戸數二百戸が養蠶をもつて更生したといふ塔也洞と慶北蠶種の大半を供給してゐる大原蠶種製造所を視察して、先づ慶北全般に亘る春蠶の現況を見るに掃立枚數十一萬五千枚、共販豫想三十九萬八千八百七十四貫となつてゐるが非常な豐況を豫想され、道としては四十三萬四千貫の共販供出を目標としてゐる、記者の赴いた清道郡では春蠶掃立七千二百枚共販二萬四千九百廿八貫を目標に進んでゐる、既に蠶は上簇期に入り畑地に列をなす見事な畦畔桑は最早一葉も餘さず採取し盡されてゐた、清道郡の養蠶と言へば必ず十九年の永きに亘つて縱横の機智と巧みな朝鮮語を驅使して普及に指導に盡瘁した元技手木谷重次郎氏の名が出るのであるが、この畦畔植桑の普及についても大正十三年氏が畑作物との競合ひを避けつゝ畦畔に植桑する方法を採ると言ふので全面的な反對をなしたものであるが、木谷氏の根氣強い努力は遂に實を結び畑地を殆どつぶすことなく見事な桑樹を育てる事が出來、漸次養蠶が普及されるに至つたのである、昭和五年以來の繭價の大暴落にも屈せず年々五十萬本以上の大桑苗を易々として成し遂げたのは偏に畑地を潰すことのない畦畔植桑のお蔭である、最近道式と呼ばれる畦畔植桑は將來の桑田擴張に多大の示唆を與へるものがある、從つて當地の蠶業は全く作付轉換の影響を受けず頗る活況横溢してゐる……